

現計画の概要

(1) 策定時の課題

- 【環境保全】 樹林地、農地の保全
水に関わる資源を活かす
- 【レクリエーション】 住区基幹公園の偏在
- 【防災】 災害に強いまちづくり
- 【景観】 富士山を望む景観の形成
花を活かした特色と魅力あるまち
並みづくり
- 【市民意識】 市街地の緑の充実
防災に役立つ緑や公園の充実
今ある緑の質の向上

(2) 将来方針と目標

将来像

富士山のふもと
花と緑と水がおりなす憩いのまち

基本目標

- 緑と水の恵みに守られたまち
- 憩いやすく緑とふれあえるまち
- 魅力ある花と緑にいやされるまち
- みんなで花と緑を育むまち

基本方針

- うるおいある生活環境と災害に強い
まちを支える緑と水を守ります
- 身近な公園、特色ある公園を充実します
- 富士山を望むまちな並みを彩る花と緑を
育てます
- 市民、事業者と協力して花と緑に
あふれるまちをつくります

目標

- 緑の確保と公園の整備に関する量的目標
(指標)
計画対象区域における緑地面積
都市公園*の市民一人当たりの面積

*広域公園（富士山こどもの国）を除いた身近な都市公園
- 施策に対する成果指標
・市民満足度に重点を置いた施策に対し
22の成果指標を設定

1 計画の 基本的事項

【位置づけ】 都市緑地法第4条に基づいて市町村が定めることができる「都市における緑地の適正な保全や緑化の推進に関する基本計画」
【目標年次】 令和17年度（2035年度）
【対象とする「緑」】 樹林地や草地、公共施設や住宅の庭先、事業所の植栽地、農地※など植物に被われた区域
河川、池沼、湧水地などの水域

2 現計画策定から約10年間の変化

本市の 概況

- 人口は減少傾向にあり、少子高齢化が進む見込み
- 市街化区域において宅地が増加し、緑（主に農地）が減少
- 都市公園は現行計画策定時から約7ha増加

国や県 の動向

- 人口減少傾向を見据えた持続可能なまちづくりへの転換
- 緑についても、人口構造や環境の変化に対応を図りつつ、適切な維持・保全、活用を重視する方向に転換
- 新たな視点「グリーンインフラ」「カーボンニュートラル」「ネイチャーポジティブ」「Well-being」

3 現計画の目標達成及び施策の進捗状況

目標達成状況

達成には至っていないが、
緑地面積を除き、目標に近づく方向で推移

①緑の確保と公園の整備 に関する量的目標	計画策定時 (平成27年度末)	現況 (令和5年度)	目標年度 (令和7年度)
計画区域における 緑地面積 (ha)	3,316	3,280	3,329
都市公園*の市民一人当 たりの面積 (㎡/人)	8.3	8.8	9.1

*広域公園（富士山こどもの国）を除いた身近な都市公園

②施策に対する 成果指標

22指標中、21指標が未達成
(ただし、未達成のうち18指標は目標に近づく方向で推移)

施策の進捗状況

施策は概ね実行され、順調に推移

- 69の取組中、59の取組が順調に推移（R5年度末時点）
- 実施しているものの進捗に課題のある取組は、湧水地の保護・整備と観光資源としての活用、比奈公園の整備など
- 未着手の取組は、公園のストック再編など

4 市民アンケート調査

緑の 豊かさ

- 居住地周辺の緑は減っていると感じる人の方が多い
特に住宅地の緑や、樹林などの自然の緑の減少を感じている
- 一方、緑が豊かだと感じる割合は、現計画策定時より上昇

緑への 満足度

- 富士山を望む市街地の景観への満足度が高く、自然の緑の豊かさ、水辺の豊かさ、市民活動の活発さなどにも一定の満足
- 全般に、現計画策定時と比較して不満を感じる割合は低下

期待す る取組

- 今後の取組として、子どもが花や緑、自然にふれあえる場や
機会の充実を期待
- 緑化・緑地保全に特に期待する役割は、良好な景観形成

5 富士市の緑の課題

既存の緑の維持・保全と 活用を一層重視する段階 への移行

人口減少が見込まれる中、これまでの取組により蓄積してきた緑を適切に維持・保全するとともに、持続可能なまちづくりに向け、その機能を活かす視点に立った取組の充実が必要

身近な緑と公園の 適切な管理、再生

まちなかの緑、身近な公園を中心に、市民が日常的にふれあう緑を適切に管理し、良好な景観形成、快適な住環境の形成につなげていくことが必要

富士山を望む景観形成 安心して快適に暮らせる まちづくりにつながる緑 の充実

市全体の視点からは、自然の緑を大切に、富士山が映える緑の景観形成、災害に強いまちづくりを支える緑の充実に引き続き取り組むことが重要

市民・事業者との協働 次代を担う人づくり

緑とともに育む市民・事業者の意識を醸成し、緑の育成、活用への関わりを広げていくことが必要
中でも、次代を担う子どもたちが身近に花や緑、自然とのふれあいの場や機会の充実が必要

6 次期計画策定の視点

緑の資産を健全に育て 未来に引き継ぐための 取組の充実

これまでの取組により蓄積してきた公園や樹木を、市民・事業者・市が協力して適切に管理し、健全な状態で次代に引き継いでいくための取組、支援を充実する

身近な緑（公共の緑や民 有の緑地など）と公園の 魅力の向上

市民が日常的にふれあう公園、緑の安全性を高めるとともに、快適さ、使いやすさ、景観などの視点から魅力を向上させ、住み続けたい都市の実現に寄与する

環境の保全と 災害に強いまちづくりに 向けた取組の継続

富士山麓や水辺の豊かな自然を大切にしつつ、「グリーンインフラ」の視点も取り入れながら、緑を生かして災害に強いまちづくりを実現していく

多様な担い手 多様な参加 を支える仕組みづくり

市民・事業者みなで協力して富士市の緑を育てるという意識を広げていくとともに、市民がライフステージに合わせて選べる多様な参加の方法を構築していく